

## ウィーン土壌宣言

### 「人類および生態系のための土壌」

#### 国際土壌年 2015 記念祝典－総括と今後の挑戦－における宣言

2015 年 12 月 7 日

オーストリア・ウィーン

高度に多様で機能的な世界の土壌は、我われの生活にとって欠くことのできない様々な役割やサービスを提供している。6 万人を超える土壌科学者が集う包括的な組織である国際土壌科学連合（IUSS）は、国際連合食糧農業機関（FAO）および国際原子力機関（IAEA）との共催により、2015 年 12 月 7 日にウィーンにおいて「国際土壌年 2015 記念祝典－総括と今後の挑戦」を開催した。国際土壌年記念祝典の参加者は、ここに宣言する：

土壌は環境の要であり、微生物、植物および動物の生活基盤である。

土壌は生物多様性の宝庫であり、人の健康に役立つ抗生物質や遺伝子の保存を担う。

土壌による水の浄化は、飲料水や他用途の水資源の供給にとって重要である。

土壌が水を溜めることで、植物は水を利用することができ、また、急激な流去も抑制できる。

土壌は植物養分の保持と供給を担い、汚染物質を含む多くの物質を変化させ、

土壌は地球規模での食料生産の基盤であり、

土壌は木材、繊維およびエネルギー資源作物などのバイオマス生産に必要であり、

土壌は炭素を取り込むことで気候変動の緩和に貢献することができ、

土壌は有限な資源であり、基本的に人間の世代時間内では再生することができず、

土壌は何千年もの間、人類によって生産的に利用される一方で、また、しばしば悪影響をも受けてきた。

土壌の重要性はさらに強調されるべきである。そのため、国際土壌年の終わりにあたって、我われは将来に向けて下記のとおり提言する：

1. 土壌科学は、関連する自然科学分野はもとより、社会、法律および文化に関する学問領域と連携して、人類の活動と土壌の関係性、および人間活動が環境の他の要素、特に景観に及ぼす影響について解明することを主たる焦点とすべきである。
2. 土壌の安全保障を食料および水の安全保障と関連付け、国連の持続可能な開発目標の達成のための主要テーマとすべきである。
3. 土壌は、地球の主要な炭素貯留源であるが故に、気候変動に関する新たな国際枠組みの下で緩和策を実行する際の解決策に持続的な土壌管理を含めることにより、気候変動の緩和に貢献できる主要な要素として土壌が位置付けられるべきである。
4. 農業に最適な土壌が分布する広大な土地の喪失を避けるため、都市化と舗装化は出来る限り抑制されるべきである。また、最適な土壌管理法の適用により土壌侵食、土壌圧密、養分収奪、塩類化、土壌汚染、および土壌生物多様性の減少のような土壌劣化を可能な限り抑制する必要がある。
5. 今後、全ての景域スケールでより復元力のある未来を実現するため、土壌の機能やサービス、持続的な土壌管理、土壌保護が重要であるとの意識を醸成するため、地球社会の全てのレベルにおいて土壌の認知度を高める必要がある。